

報道関係者各位

2010年6月9日

G8・G20に向けたセーブ・ザ・チルドレンの見解

急がれる国際社会の早急な対応

社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

6月25日より開催されるG8サミット、そしてそれに続くG20サミットに際し、セーブ・ザ・チルドレン・は下記の通り見解を表明します。

近年、国家、国際機関、企業、与野党間のかつてないレベルでの協力のもと、世界的な金融危機がもたらした悪影響を断ち切るための努力が行われています。その結果生まれた力強いコンセンサスは、確固たる行動や巨額の救済措置につながりました。

10年前、世界はある別のコンセンサス—世界の貧困削減のためのミレニアム開発目標—で一致団結しました。しかし、そのコンセンサスは未だ行動に結びついていません。目標達成期限まであとわずか5年という状況の中、金融危機に対して生み出された解決策のような、断固たる結束した行動は、既にその開始されるべき時期を大幅に過ぎています。

子どもの死亡率の3分の2削減（ミレニアム開発目標4）と妊産婦死亡率の4分の3削減（ミレニアム開発目標5）という目標は、ミレニアム開発目標の中でも最も進捗が遅れています。現在、年間約900万人もの子どもが5歳になる前に予防可能な原因で亡くなっており、約50万人の女性が妊娠・出産に伴うトラブルや感染症で亡くなっています。

悲しいことに、私たちはこのような数字に対して麻痺してしまいます。豚インフルエンザなどの伝染病により世界中の子どもと母親が同様の規模で亡くなっていることを想像してみてください。世界はこの問題に対して直ちに立ち上がり、対応しなければ政府は失脚するでしょう。悲しいことに、世界で最も貧しく、弱い立場に置かれた何百万人もの人々の死を、私たちは受け入れているのが現実です。世界はHIV/AIDSの犠牲者を助けるために立ち上がりました。なぜ、予防可能な要因で命を落とす母親と子どものために同じように行動しないのでしょうか。

6月下旬にカナダで開催されるG8サミットと、それに続く9月の国連ミレニアム開発サミットは、ミレニアム開発目標4および5の達成に向けて世界が目覚まし、真剣に行動するために極めて重要な場となります。サミット議長国であるカナダのハーパー首相は、妊

産婦・新生児・5歳未満の子どもの保健が今回のG8における絶対的な優先事項であることを表明し、この問題に対するコミットメントを強調しました。G20においてもその多くの国で子どもの死亡率は問題となっており、またG20全体としてこの問題に世界的に取り組むための資源を有していることもあり、G8・G20の両サミットにおいてリーダーシップが発揮される必要があります。2010年の一連のサミットは、間違いなく2015年のミレニアム開発目標の達成期限までに母子の死亡率を削減するための必要措置—確固たる見積りに基づく国家保健計画、拠出資金の増額、ヘルスワーカー増員を通じた保健システム強化、費用対効果の高い支援策の拡大など—をとるための最後のチャンスとなるでしょう。

2010年は、断固とした行動を取るべき年です。G8・G20サミットは、社会の最も弱い立場に置かれた人々の、必要のない死を防ぐための機運を高める絶好の機会です。今年後半のミレニアム開発目標サミットは、この機運を活かし、他の国々へのコミットメント拡大につなげ、アフガニスタンの山々、インドのスラム街、エチオピアの野原で生活する子どもたちのために美辞麗句を現実に変えるための機動力とならなければなりません。

国連事務総長の潘基文氏は、女性と子どもを「成長のエンジン」と呼びましたが、エンジンが正常に作動するためにはメンテナンス、つまり保健ケアが必要です。女性と子どもの健康への投資は、道義的に正しいばかりでなく、貧困削減やGDP増加という実証可能な利益にもつながります。医療保健や栄養の改善は、学校での成績向上や就職の可能性につながる他、興味深いことに親が子どもの生存に安心を覚えることで人口成長の抑制ももたらします。これらはすべて、国家と経済にとっての負担軽減を意味します。例えば、米国国際開発庁の調査では、妊産婦および新生児の高い死亡率は、年間150億ドルの世界的生産量の損失につながるという結果が出ています。つまり、母子保健への投資は道義的にも財政的にも価値があるということが言えます。

費用対効果の高い支援策への国際的な資金拠出が著しく不足しています。財政救済措置で集められたような何兆といったレベルの投資を必要としているわけではないのです。2015年までに、開発途上国および援助国においてミレニアム開発目標4および5の達成のためには、300億ドルが必要と試算されています。G8首脳国は、2015年までの母子保健への二国間援助額を年間40億ドルに倍増し、G20参加国にも自国および海外において拠出を増やすことが求められます。

産前産後のケア、出産での専門的介助、下痢・肺炎・マラリアの治療、ワクチン接種などの提供を含む国家保健計画への投資は、多くの家族の将来への展望を開きます。世界中で医療の専門家250万人および地域のヘルスワーカー100万人を育成することで医療従事者の不足を解消すれば、基礎的な医療サービスを提供することができ、貧しい家族が収入を

得る機会を増やすことができます。

銀行に様々な規制が敷かれているのと同様、私たちが求めている妊産婦・新生児・子どもの保健への投資も、効果的かつ説明責任を果たすものでなければなりません。資金が効果的に活用されれば、妊娠・出産に伴う 100 万人の女性の死を予防し、450 万人の新生児、650 万人の子どもの命を救うことができます。

エンジンには燃料、つまり食料も必要です。栄養不良は子どもの死亡の主要な根本要因で、毎年少なくとも 300 万人の子どもが栄養不良により亡くなっています。昨年のラクイラ・サミットでは栄養と飢餓に対する公約に各国が合意したものの、2015 年に向けた目標達成のためには、早急にこの公約を思い切った行動に移す必要があります。

今後 5 年間で母子の死亡率削減を達成するためには、援助国および開発途上国が力強い、断固としたコンセンサスのもと一致団結し、母子保健に力を注がなければなりません。

目標達成期限まであとわずか 5 年の今年、G8・G20 で必要な体制が築かれ、続く 9 月のミレニアム開発目標サミットに引き継がれなければ、2000 年の約束は果たされることはないでしょう。私たちは立派な志は持っていたが、恐るべき怠惰な世代として、銀行を崩壊から救ったが、予防可能な死から赤ちゃんを救うことができなかった世代として、歴史にその名を残すことになるでしょう。

セーブ・ザ・チルドレンは、G8・G20 サミットにおいて、各国首脳が断固とした決意で、ミレニアム開発目標達成に向けた必要措置を講ずることを強く期待します。

■セーブ・ザ・チルドレンとは

1919 年に設立した子ども支援国際 NGO。現在、世界で 29 カのそれぞれ独立した組織が、パートナーを組み、世界最大のネットワークを活かして、120 カ国以上で活動を展開しています。90 年にわたる活動は、世界の NGO の代表格として各国政府からもその重要性を認められています。